

# 火災による被害を防ぐ

火災による被害をなくすためには、日頃から火災を発生させないように注意するのはもちろんですが、万が一出火したときにどのように行動すべきか覚えておくことも大切です。被害を最小限に抑えるために、家族、地域ぐるみで防火意識を高めましょう。

## もし出火したら…

出火の現場に居合わせたらまず「通報」、それから「初期消火」「避難」の順番で行動するのが原則です。ただし、優先順位は状況により異なります。出火直後なら「通報」と「初期消火」の優先順位が高くなりますが、そのために逃げ遅れては大変です。あわてず冷静な判断を心がけましょう。



### 行動1 早く知らせる

- 大きな声で「火事だー!」と叫び、隣近所に知らせる。声が出ないときは、非常ベルや、やかんや鍋など音が出るものをたたく。
- どんなに小さな火事でも必ず119番通報する。



### 行動2 初期消火

- 火がまだ横に広がっているうちは消火が可能。
- 消火器や水だけでなく、毛布など手近なものを利用する。

#### 覚えておこう! 火元によって消火方法が異なる

##### コンロ

- 油鍋に水をかけるのは厳禁。
- 消火器は離れた位置から鍋の全面を覆うように向け噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツやバスタオルをぬらして手前からかぶせ、空気を遮断する。

##### 衣類

- 着衣に火がついたら、転げまわって火を消す。風呂場に残り湯があれば、浴槽に飛び込む。



##### ストーブ

- 消火器は直接火元に向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツや毛布などをぬらして手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

##### たき火

- 消火器を使う。消火器がない場合は水や土で消す。
- 水の準備ができていない場合は、ほうきや木があればたたいて消し、その後、水でしっかり消火する。



##### 電気器具

- いきなり水をかけたり、泡消火器の使用は感電の危険がある。コンセントかブレーカーを切り、粉末消火器で消火する。

##### カーテン・ふすま・障子

- カーテンは燃え広がる前に水をかける。できればレールから引きちぎり消火する。
- ふすまや障子などはけり倒して、踏み消す。その後、水をかけてしっかり消火する。

### 行動3 早く逃げる

- 天井まで火が燃え広がったら消火は困難。無理せず早めに避難する。
- 可能ならば、燃えている部屋の窓やドアを閉め、空気を遮断してから避難する。



## 火災を防ぐために

### 1 放火対策を万全に

ゴミは指定日の朝に出すなど、家のまわりに燃えやすいものを置かない。車庫、物置などの戸締まりも忘れずに。



### 2 コンロから離れない

コンロのまわりに燃えやすいものを置かない。火がついているコンロから離れるときは、必ず消すこと。



### 3 寝たばこ、ポイ捨ては厳禁

火がついたたばこを放置しない。喫煙するときには深い灰皿を使い、吸殻を捨てる時は必ず水にさらす。



### 4 子どもの火遊びに注意

子どもには火の正しい使い方や怖さを教える。子どもの手の届くところにマッチやライターを置かない。



### 5 ストーブのまわりを整理

衣類やふとんなど、ストーブのまわりに燃えるものを置かない。家具のそばにストーブを置かない。近くで洗濯物を乾かすのも危険。



### 6 配線まわりはきれいに

複数のコードをまとめたり、たこ足配線をしな。コードの上にものを載せるのも危険。コンセントまわりは定期的に掃除する。



## 消火器の使い方を覚えておこう

### ■消火器の使い方

- ①安全ピンに指をかけ、上に引き抜く。
- ②ホースをはずして火元に向ける。
- ③レバーを強く握って噴射する。



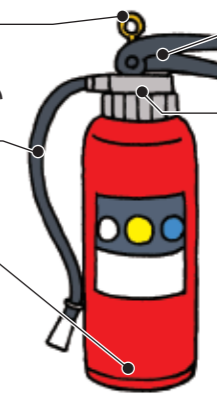
### ■消火器の構え方

- ①火の風上にまわり、風上から構える。
- ②やや腰を落として低く構える。
- ③炎を狙うのではなく、火の根元を掃くように左右に振る。



#### 消火器は定期的に点検を!

- 安全ピン
  - ・変形、破損はないか
  - ・封印は切れていないか
- レバー
  - ・変形、破損はないか
- キャップ
  - ・変形やゆるみはないか
- ホース
  - ・ひび割れ、ゆるみ、劣化はないか
- 本体・底部
  - ・サビや変形はないか
- シール
  - ・使用期限内か
- ゲージがついている場合
  - ・圧力を示す針が規定内にあるか
- 消火器の種類
  - ・有効な用途を確認する



### 本当に恐ろしいのは煙です!

火災で発生する煙には、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれています。吸い込むと中毒などにより命を落とす危険性があるので、次のポイントに気をつけながら避難しましょう。

- ぬらしたタオルやハンカチなどで口と鼻を覆う。
- 短い距離なら息を止め、一気に走りぬげる。
- できるだけ姿勢を低くする。
- 視界が悪いときは壁づたいに避難する。